

今回は、猫の心臓の病気である心筋症について解説しましょう。心筋症は心臓の筋肉に異常が起きて心臓の働きが低下する病気です。いくつか種類があり、多く見られるのが肥大型心筋症です。

肥大型心筋症になると、心臓の筋肉が厚くなります。心臓の中の部屋は狭くなり、血液を少ししかためることができません。そのため、全身に十分な血液を送り出せなくなります。主に左心室に起こりますが、他の心臓の部分でも発生することがあります。

原因としては、遺伝子の異常が関わっていることが、ある程度分かっています。肥大型心筋症になりやすい猫の種類もありますが、普通の一般的な日本の猫にも見られる病気です。

症状出ない場合も

肥大型心筋症になっても、症状が出ないことがあります。元気で食欲もありますので、飼い主さんは気づきません。他の病気にも見られるような食欲不振、吐く、よだれが出るといった症状が現れることもあります。この場合も心臓が悪いとは思わないかもしれません。重い症状は、突然現れます。

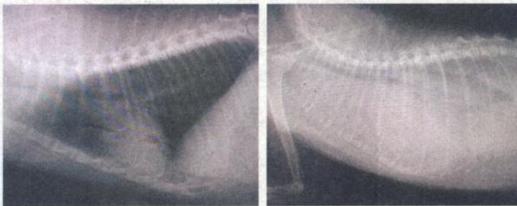
猫の肥大型心臓病

竹山動物病院 獣医師
(富山市西田地方町1丁目)

宮崎 陽子



肥大型心筋症になっても、食欲が旺盛な場合もある。重い症状は突然出るので注意が必要だ



右は胸に水がたまった猫のレントゲン写真。左は正常な猫

呼吸や足の動きに注意

呼吸が速く苦しそう、急に後ろ足が動かなくなる、失神する、突然死する。これらの症状が出たときは、肥大型心筋症の可能性があります。

それぞれの症状について説明しましょう。呼吸が苦しくなるのは、胸や肺に水がたまるからです。後ろ足が動かなくなるの

は、心臓の中にできた血栓（血の塊）が血流に乗り、後ろ足に流れる動脈に詰まるためです。失神や突然死は、不整脈のために起こると考えられています。

重いつつも軽いといった症状が見られたら病院に連れて行きましょう。息が苦しかったり痛みがあったりすると、飼い主さんでもかまれることがあるので注意してください。

重い症状の場合は、酸素吸入や胸の水を抜くなどの処置をしながら、猫の症状に注意して検査してください。

呼吸が苦しそう、後ろ足が動かなくなる、失神する、突然死する。これらの症状が出たときは、肥大型心筋症の可能性があります。

検査をしていきます。呼吸が苦しい病気は心臓病だけではありません。血液検査やレントゲン、超音波、心電図などによる十分な検査が必要です。

肥大型心筋症と判明し、胸の水を抜いたり、酸素吸入したり、利尿剤や心臓の薬で治療したり

先ほども少し触れましたが、肥大型心筋症は遺伝子が関係しているため、これといった予防法はありません。人間と違って動悸や息切れなどの自覚症状を訴えることがないので、症状が全くない猫では、心臓に雑音がない限り、一般的な健康診断で肥大型心筋症を発見することはできません。

元気で症状が出ない場合の検査法については、かかりつけの獣医師にご相談ください。また、人間の肥大型心筋症には治療の

指標がありますが、猫ではまだはっきりとした指標がありません。治療に関しても獣医師と十分に話し合ってください。

◇ 次回は来年1月8日に掲載します。